

# あごら

## MINI

〈11号〉

1977年11月10日発行 ¥100 千60

今月のなかみ

- 〈詩〉 飢餓女考 渋谷美代子（北海道の女性詩人）……………1
- 〈イラスト〉 鈴木トミエ……………1
- 〈快談・怪談〉 結婚についてホンネを語る……………2
- 〈聞く〉 道炭婦協会長 福井よし江さんをたずねて……………5
- 〈ルポ〉 北海道の「かけこみ寺」訪問記……………6
- 〈すてきな女〉 山岡路子さん……………7
- 〈読む〉 ベカンベの詩……………7
- 〈小休止〉 女性客のみコーヒー10円でのませます……………7
- 〈お知らせ〉 女のつとめ・女の講座……………8

〈あごら〉は、会員の出した基金と年会費および雑誌〈あごら〉〈あごらミニ〉の売上で運営されており、どの企業、どの政党、どの団体からも1円の援助も受けていません。年会費は婦人問題総合情報誌〈あごら〉(A5 180ページ)ともで4,000円。〈あごらミニ〉のみ購売の場合は2,000円(いずれも送料とも)です。会費・誌代は振替でどうぞ。

〈女と男〉の二雑誌〈あごらミニ〉●何でも言える  
●何でも言ける●小さな〈ひろば〉=AGORA・〈あごら〉  
●あなたの声を待ってます。下欄の編集部へどうぞ。

## 飢餓女考

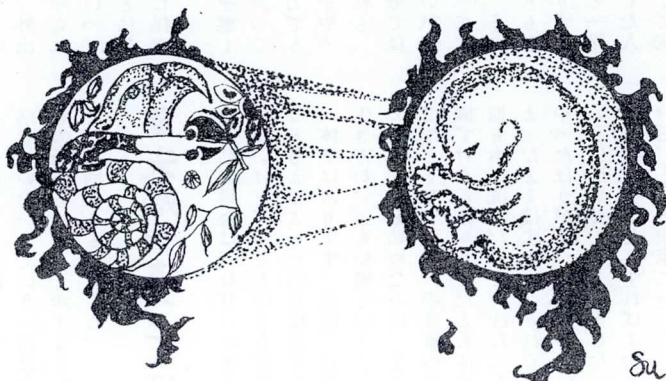
渋谷美代子

食べても 食べても  
目のくらむ飢えが襲うと言ったら  
わたしが食べるものを上げようと言われた  
物乞いの目の前をおよぐおにぎりのように  
あんまりぶしつけだったけど  
何よりも満ちたかったから  
わたしはだまってあなたを食べた

朝な 朝な  
蛔虫のように  
ひかってわたしを渡るものよ

食べた後なら叫んでもいいのだ

わたしもさびしい  
と  
あなたを食べて



なお わたしは飢えてゆくと

ほう さびしいとね

生意気な奴め

ヒューム管でも割って食べさせろ！

ねそべって唾を吐く  
飢えるスキマのない神々の  
腹

クツテヤル  
ヒューム管ダツテ何ダツテ  
石コロダツテクツテヤル

食べた後なら叫んでもいいのだ

食べて吐き

吐いては食べ

永遠のくらやみの汚物にまみれ

わたしはさびしいと

目のくらむ飢えがわたしを射ぬくと

東京都新宿区新宿 1-9-6 千160

# あごら

# 結婚について ホンネを語る



〈あごら北海道有志〉

あごら三二二号「夫についてホンネを語る」を読んだとき、私達はビックリしました。「こんなに古い結婚をしているの？」って。ところが、その私たちもやっぱり夫との関係で悩んでいます。あごら東海の方々が、「これまで夫婦相和すために夫にホンネを語り続けてみよう」といって結婚をだしたのに対して、私達は「すでに、それぞれ夫や恋人にホンネを語り続けてきている。けれどわりきれないものや混沌をかかえている」というわけですね。そこで、問題をもう少しほりさげてみるために、夫婦関係のホンネを語りあってみました。

**A** 私は共働き結婚で家事も分担してやってきたけれど、妊娠したとき職場のことでとても疲れていたから一時的なつもりで仕事をやめたの。そうしたら自分が働いていたときのつらさが夫への同情に変わってどんどん家事をひきうけてしまい、一年後に気がついたときには夫と対等に会話もできず、外出するにはおうかがいをたてるという状況になっていた。そこで「お互い一回きりの人生を拡大しあうために結婚したはずなのに……」と話しかけて復権運動を始めたわけ。それから三年半、地域活動や研究サークルの合宿なんかも自由に参加しているし、外出時の子どもの食事のことも夫にまかせられるようになったわ。主婦だからといって「できない」状況を背負いこむことはないと思うの。今は再就職するために保育所申請中です。

**B** 私はこれから結婚するんだけど、宗教の違いもあって、相手の生き方には干渉しない姿勢をとろうと思ってるんですけどもミニ二号を読んで、夫婦ってこんなにも離ればなれの気持ちで生活できるのかってこわい気がした。結婚を前にしてまわりから「一体」ってことをすごく強調されるし、少し混乱してるの。でも、一般にいわれる夫婦一体って、一方的に女が男にあわせていくという意味でしょう。女が生き方を干渉されて窮屈になりながら心の中は別々ということもありますね。私は、お互いに干渉しないでお互に生活者でいたいという一体感を持ちたい。心の通いあいと、干渉するしないということとは別のことですよね。

## ♥夫婦一体って？

**C** 私の場合は、お互いの生き方は干渉しないけど、子どものことや政治のことなど考えることで同じ位置に立てるから一体感があります。ただ、自由に自分の生き方ができる結婚ということで共働きの共同生活を始めたのに、子どもができて忙しくなったら夫の家事のやり方が不満でけんかばかり。たとえば油もののお皿も水で洗うだけとか洗たくものはまるまっただままほすとか。それでいつそ私がやったほうが、夫は仕事・私は家事という生活にしていまいした。もったねばり強く教えたりすればよかったんですけど、ところが家にいたら、思考の後退——自信の喪失——焦りの蓄積ってわけ。突破口を見つけないかと思って子どもを託児所に預けて働きたんですけど、そのとき夫とトラブルがありました。私たち、分業生活をしている間に、知らないうちに違った感覚を持つようになっていたって気づかされたんです。夫は、いつの間にかタチメエは妻が働くこと賛成、ホンネは家においてほしいというふうになっていったんですね。それで私が仕事を持つこととか、夫も家事育児をすることとか、いろいろ話しあって、そのときはとても気まずい思いをしたけれど、そのあと二人ともあらためて理解しあえてとてもよい気持ちになりました。

**D** そういうことです。僕は、夫婦って理論的なつながりと一緒に感覚的なつながりって大きいと思う。

**E** 私はいま理想と現実のギャップを感じている。人生を共に生きる人がほしい、結婚したいという気持ちがある一方、まわりの夫婦を見ているとどうも結婚したくないって気持ちになるし……

**F** 私は結婚してみても想像と現実のギャップが予想以上に大きかった。私も夫もそれぞれやりたいことを持っていて、お互いに足をひっぱらずにやればよいと思って結婚したし、経済的自立も家事協力もできているけれど、一緒にいる理由がわからなくなってくるような。セックスだけが目的ではないだろうかと思えてきたりする感じ。

## ♥結婚は愛をダメにする

**G** この頃また離婚を考えているけど勇気がない。経済的には何とかやっていけ

ると思うけど、淋しくなるのではないかと心配なの。だけど結婚では本当の人間同士の深いつながりを持ってないような気がする。どうしても日常の中で束縛があるし、夫との間に考え方のくいちがいはないけど、結婚の中では愛情も本当に真剣なものが持てない気がする。セックスも、結婚制度の中ではどこか妥協的なまやかしかがあるような気がして、いまセックスを持たずにいるんだけど、夫との間に性欲のギャップで苦しんでいます。

二人で語り合う時間はいつも必要だし大切だけれど、何でもかんでも一緒にコミュニケーションが深く持てるわけではないんだし、結婚制度にはいつてしまふ前の、もともと強い人間同士のつながりをもう一度とりもどしたい、そのために離婚したいって、夫と話しあっているところ。でもお互いに忙しい生活の中でこのまま離れてしまったら、精神的にも離れてしまうのではないかという不安とかいろいろあって、ふっきれずにいるの。

## ♡愛着と思いやりの仲？

H 結婚しているから自分にきびしくなれないとは思わないな。結婚十四年だけど、つれあいとして一番適当なのは、お互いに干渉せず何をやっても全く信頼しあえる相手だと思う。それに男と一緒に長く暮していると愛着もできて、決定的な何かがないと別れがたい気もしてくる。性というように欲望の処理は結婚の中に限らず男女にあるんじゃないかしら？

I 適当な処理をよしとするなら簡単だけれど、愛する男とのそういう関係を望んでいるわけではないでしょう？

H 欲望のないときのセックスというように屈辱感は、結婚の中では女に限らず男にもあるでしょう。相手への思いやりに変えることもできるのではないかしら？

I それ自体が結婚制度の問題では？

F 夫婦間のそういう思いやり・優しさは、それが両方にあるなら悪いといえない面もあると思うな。

## ♡女の自立を奪うワナ

I 私は、結婚というのはできればしないほうがよいと考えている。もちろん私自身心の奥に結婚願望があるのはわかる。小さいときから、いつか私にピッタリの男性があらわれて一緒に暮らすんだってなるとなく夢みていた、その延長線のようなものが残ってるの。

J 私も結婚幻想を持っている。男性に頼るというより、自立した生活をして、心のうらおいとか愛とか精神的なものを結婚に求めたいの。

I でも結婚していても孤独独であるし、一人でいても、そういう、うらおいとか慰めを得るってことはできるでしょう。

J でもそういう相手と会えたら、当然いつも一緒にいたいと思うのではないかしら。そして子どもがうまれたときのことを考えると、結婚することになるのではないかしら。

I 私もうそういう気持ちでわかるけど、だからって結婚してしまつたらいろいろ

な矛盾に目をむけてきたのに結局オワリだと思う。相手と本当に良い関係を持ち続けたいからこそ、私は結婚形態の中にはいらなくて聞つていきたい。

H いろいろな形の聞いがあつていいんじゃないかな。結婚してその中で改革していくやり方も、しないで闘うやり方も

G それしかししようがないけど、結婚が問題なのは夫との関係という個人的な面だけでなく、もつと大きな問題、結婚制度が生みだしてきた社会的問題があるの。

職安に行つても「ご主人がちゃんと収入を得ているのに」と言われて、職を紹介してもらうまでに何回も足を運んで、ついにはケンカごしに要求しなければならなかった。結婚制度は女から経済力を奪つてしまふ。家庭や親類内で、夫が妻

かどちらかが仕事を休まねばならない事情ができると、収入の少ない方が休んでやれということになって結局私が休むことになり、職場内でも女は働きづらくなる。社会福祉としてやるべきことも、個人の問題として女に家庭で背負わせるシクミがあるんですよ。

I 共に自立していくつもりだった夫婦でも、子どもが重病や障害を負つたら、女が自立をあきらめて子どもの世話を買つていかざるをえない現実があるでしょう。

## ♡女は弱くさせられる

G 知人で、子どもの看病のために家庭に引つ込んだら、夫に養つてもらわなきゃ生きていけないということ、本当に弱くなつてしまつた人がいる。

A・29才。結婚7年。子供5才と2才。無職。

B・27才。婚姻中。結婚で引越すため辞職。

C・34才。結婚6年。子供5才と3才（職場の託児所）。外交員。

D・33才。Cの夫。

E・26才。独身。公務員。

F・27才。結婚2年。エレクトロニクス教師ほかアルバイト。

G・40才。結婚18年。子供16才（障害児）と12才。会社員。

H・34才。結婚14年。子供3才（町立保育所）。学童保育指導員。

I・22才。独身。夜間学生。昼はアルバイト。

J・23才。独身。夜間学生。昼は会社員。

K・31才。結婚6年。子供1才（市立保育所）。英語教室教師、フリーライター。

L・22才。独身男性。学生。

H 家の中にはいったとき、私も弱くされてしまつたと思った。だからなんとか家の中に引つ込まないようにしなきゃ。

C でも、そうせざるを得ない状況に追いこまれるという現実があるわけでしょう。そしてやつとのことで再就職しても本当に仕事に限られてますよね。私自身、いま自分がただすりへらされていつているような気がする。だから仕事をもつのはやめようというのではないけれど、せめてもう少しやりがいを感じられる仕事を



持てたら、疲れ方がちがうんじゃないかなって思うんです。

H 私はいま、子どもの病院通いをしながら仕事をしていた本当に疲れるんだけど、やりがいがあるからすごくいい。でも自立には遠い収入で、夫とケンカすると、お前何もしないでいいじゃないかと云われる。経済的自立ができないと本当に弱いと思う。それに対して、私が働いても夫と同等の収入を得られないのは今の社会のユガミのためなんだと抗議するけど、そのユガミに甘えてるんじゃないかって言われちゃうし。

K でもユガミのせいにして遊んでいるのではなく、努力して働いているのだから甘えてはいないんじゃない？ 仕事時間の関係で家事育児分担当に完全に半々でなくても仕方ないとしても、もし「お前は自立してないんだから」ってことで家庭負担を女に押しつけたら対等以上の権利を主張するなら、そのほうがむしろユガミに甘えていることだと思ふの。

こういうことは夫はもう認めているし、家事育児はなんでも一緒にするからいまさら言わないけど。

E 結局そういう話し合いが通じる相手っていうか、共通の意識を持つて話し合える男性とじゃなきゃ結婚したらダメってことね。

K でも私たはいまケンカするときなんか、理屈はもうわかってるのだから言ってもムダだし、かえってタチが悪い感じ。ときどき、社会のユガミや圧力のために、私たちの間にこんなヒビがはいってしまふなんてと悔しくなる。これが

どうにもならないミズになって別れるとしたら、もう結婚はゴメン。今度は深い人間関係を持てる男と出会っても結婚はしない。この男でダメならほかの男とやってもダメだろうって思うから。

## ♥結婚制度への疑問

H 私は他の人とやってみてもいいんじゃないかと思ってるけど。

G 私はKさんと同感。二人の人間的問題ではなく社会の力によって、結婚した者がバラバラにさせられるのだから。

C お互いに尊重しあうって自由にやっていけるような幻想をもつて結婚したけれど、実際にはそうできなくされている。自立し続けよう、家の中に引っ込まないようにならなくとも、そうせざるをえない状況に追いこまれることもある。

夫とのコミュニケーションは大切だけど、二人の力ではどうにもできない部分ですごく大きいですよ。

G それが、結婚という一つの社会制度の、敵のワナにかかった状況では？

J 結婚制度を破ればよいのかしら？

L 破ればよいというわけではないけれど、僕はいまの一夫一婦制の結婚制度の中で生きていく自信はない。ただ僕は一夫一婦的なものをきっぱり拒否しているわけじゃない。自分の中にもそこにある安定にそこがれる気持ちもあるし。だけど一人の女性を一生真実に愛し通せるとは思えないんだ。愛がさめるときがあるかもしれないし、他の人を愛するかもしれない。そこで、自分たちが一夫一婦的

に生きようとするのか、つまり、お互いに相手との関係を永続的にさせることに最上の価値をおいてやっていこうとするのかどうかは、大きな違いになると思うけど、それには僕は疑問があるんだ。

C まわりを見ても、お互いに愛情も信頼関係もないのに、結婚した以上は一緒にいる夫婦でありますね。それへの疑問だと思ふけど。

L だから、たとえばスウェーデンのように子どもを産むことが社会的なこととされている社会、女性の個人負担を作らない社会でしか、僕のような考え方は子どもを産めない。日本のように出産・育児が個人のことでされていて、しかも一夫一婦制の社会では、犠牲になるのは子どもだから。

C でも子どもに関しては、たとえ一夫一婦的な気持ちでいる人でも、もしその関係がくずれてしまったときには子どものために離婚しないというより別れて育てる方が子どもにとってもよいと思う。

L それはそうだけど、基本的に一夫一婦的在り方を肯定しているかどうかは、女性との関係でも子どもを持つことでもすごく大きい違いがあるよ。

## ♥良い関係を持つために...

K いまスウェーデンで自立パパっていうのがふえてるんですけど。未婚ではなく、意識的に結婚形態にはいらずに自立形態をとっているというわけ。ある自立パパ家庭が紹介されて、昼間はそれぞれ職場と保育所、夜は家庭と一緒にとい

う生活で、子どもは週に一日、母親の所に遊びに行く。そのときは父親が送り迎えするんだけどちょっと不自然でないのね。セックスも、結婚の中のセックスが道徳的だとは考えないし、女性との関係も結婚のワケに規定されない方がむしろお互いによいものを持てるって言うた。

自立パパ・ママがごく普通の社会になつたら子どもは親の状況によって差別されたりしない。そして男も女も、どういう人間関係で生きたいかっていう純粋に個人的な性格や思想の問題として、結婚形態や自立形態を選ぶ。イイなあとと思う。

H そうね、それで結局一生一人のひとと一緒にもしないし、そうでないかもしれないけど、何しろ経済的なことやいろんな思わくにと束縛されないで自由に選べるっていうことが二人の関係にとっても大切なよね。

L でもそれにはまず女が男と同レベルで自立できる社会にならなければダメだし、もつと生活者としての時間を持てる労働条件とか、育児の社会化や病気のときなどの社会福祉がもつと充実しなければね。

G 本当にそんな社会になるといいわね。でも少しづつでもそういう方向に行くんじゃあない？例えば未婚の母にしても、親の世代と子の世代とは受け取り方が全然ちがうでしょう。ただ、目指すはそういう社会だけれど、さて問題は、そういうビジョンをもった私たち一人一人がいまここから帰っていった所で顔を会わせる男と、これからどういう関係を持つて生活していくかってことね。

一同 そういうこと。頑張らましよう！

## 道炭婦協会長 福井よし江さんをたずねて

—組織された主婦のたたかい—

あごらは個々の女が自由に参加し手をつなぐひろば。これに対して、組織の中で活動している女たちのことも知りたいと思い、日本炭鉱主婦協議会北海道地方本部（炭婦協）をたずねてみました。

現在石炭業界で働く人々の六〇％以上が北海道に集中しています。その炭鉱労働者の妻たちは、どのような活動をしてきたのでしょうか。炭労の事務所でお会いした福井よし江さんは、炭婦協の歩みを気さくに語って下さいました。

—炭婦協との出会い—

「二十三歳のとき終戦で樺太から引き揚げてきましたが、その体験を通して平和の尊さを知りました。それまで政治とは無縁だったのですが、夫が夕張炭鉱で働くことになったとき自然に主婦会にはいりました。炭住（炭鉱労働者住宅）にはいるとき、班長さんが住んでいた家にはあったので、そのまま班長になったのです」

—炭婦協発足の経過は？

「終戦直後の物不足のとき、会社の倉庫に物資が隠されていることが暴露されて『食料を出せ』と主婦たちが各地で運動を始めました。さらに、次々とおこる賃金カット・人員整理の中での生活の苦しさに主婦の怒りが爆発。労組にまかせただけでなく、主婦も乳のみ児をせおい手

弁当て鉱業所に座りこみ、会社に身のまわりの要求をたたきつけました。いつも生命の危険にさらされて働いている炭鉱労働者の妻として、生きるためのギリギリのたたかいでした。こうした中でいくつもの主婦会が手をつなぎ、昭和二十七年道炭婦協ができたのです。

## 家族ぐるみ、根をはった力強さ

いを全国的な広がりにして生ワク輸入に成功しました。これをきっかけに身障児の施設も作りました。また、事故で夫をなくした婦人の再就職あっせんや、保安強化要求、閉山後の人たちのための炭鉱離職者援護協会作りもしてきました。

今は米価問題にとりくんでいます。米の調査だけでなく、援農として農村にでかけて、農村との交流を持とうとしています。夫をなくした妻たちの生活保障の要求も、炭鉱だけのものではなく女たちすべての問題としてとらえて、年金闘争を広げているところですよ」



—具体的にどんな活動を？

「米よこせ、ヤミ物資の流通なくせ運動からはじまり、労働金庫設立、生活協同組合作り、冠婚葬祭簡素化などの生活改善運動、さらに炭住改善要求もだしました。六帖三帖二間の長屋式炭住に舅・姑同居の生活では夫婦関係もスムーズに持てない悩みがあったのです。必要に迫られて共同保育所作り、認可獲得、それに老人クラブ作りもやってきました」。

昭和三十五年小児マヒが流行したときには、足りない生ワクチン獲得のたたか

## 「これでは生きてゆけない」という切実な要求からうまれた「生活を守るたたかい」が、社会を変えるたたかいへと広が

り成長してきているようです。意識の改革を唱えるだけでなく、身近な問題を次々に解決していく炭婦協のたたかいに、根をはった力強さを感じました。

—終わりに福井さん自身のたたかいをお聞かせ下さい—

「女が外に出ていくのにはいろいろ問題がおこりがちです。周囲にも、妻の活動をやめさせるために未組織炭鉱などよそ

に移った家族もあります。

しかし私は、夫や家族の不満も、常に話しあいづけることと、たたかいを最後までやりとげることによって理解をえてきました。いつも家族のためにたたかっていたつもりです」。

ご自身のことは、なぜか言葉少なだった福井さん。組織の中で、個よりも全体を優先させてたかたつてきた姿勢のあらわれでしょうか。

女が外の活動に身をいれるとき、その正当性に対する理解だけでは片づけられない葛藤があることを、私たちは痛感してきています。それは炭婦協の婦人たちにとつても例外ではない葛藤でしょう。

「家族のために」との言葉のなかに、ご自身そういきかせながらガンバってこられたのではないだろうか、一人の女としての福井さんの苦しみの跡を見る思いがしました。

そして、夫の職業を媒介として組織され、「夫のため子供のため」がそのまま女自身のためという発想の闇を続けるなかで、女自身の痛みに対する視点が犠牲にされてきたところはないだろうか、といわゆる「主婦会」に対する疑問を感じさせられたのも、正直なところですよ。

## 女たちの幸せな明日をめざして

炭婦協の婦人たちの力強いたたかいは歩みとその成果を見、その一方で「妻として母として」の立場から一步出た「個として」の女の痛みをそこにもかみ見るとき、女たちの切実な要求実現には、

さまざまな立場、さまざまな意識の女たちが広く手をつないで、持ち味をいかしあい、たすけあつていく必要を痛感しました。あごらも、女の幸せをめざしてたたかいは輪を広げたいと願います。

# 北海道の「かけこみ寺」訪問記

「北海道にもかけこみ寺がある」ときいて訪ねてみた。札幌の地下鉄すすきの駅から中央区役所にむかう途中、広い石山通りに面して建つ北海道婦人相談所（南4西10）である。昭和三十三年、売春防止法に基づき売春婦の更生施設と緊急一時保護所と併せて開設された。昭和四十二年をピークに、売春はトルコ風呂などに潜在化して件数が減り、最近では家庭紛争、経済問題、結婚離婚問題がほとんどとのこと。

建物は二階建てで、保護室は三室ある。定員二十名。「福祉制度や法律を知らないために苦しんでいる人が多いのでその面からまず相談にのり、それから家庭裁判所や職安、ほかの福祉施設などへの紹介も行ないます」という。利用者数は昭和五十二年度で四百三十名、年齢別にみると十八才未満約百九十件、二十代約九百件、三十代約千二百件、四十代約千百件。かけこみ理由の多くはやはり夫の暴力。下着のまま飛びこんでくる例もあり、衣料など日用品の無料支給も行なっている。

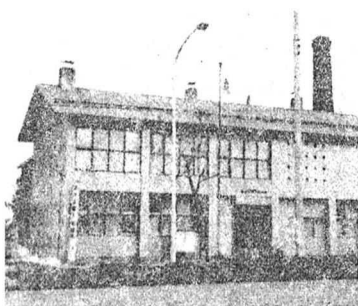
たのは今年度にはいつてから。まだまだ必要としている人に知られ利用されるまでいつていないよう



だ。「この種の施設は各都道府県にあり、いま話題のかけこみ寺というのは、とくべつ新しいものじゃあないのです。」とのこと。なお一層のPRで、施設が活用されるようになることを望みたい。けれど……

だらしない女がいくところ？

「しかしねえ、ここにかけこんでくるのは、自分の化粧道具は持つても子どものミルクは忘れてくるような女性が多いですからねえ。家庭がうまくいかなくて当然といえなくもないですよ」との所長松崎氏の言葉妙にひつかる。



「そんなだらしない、非家庭的な女じゃ夫にさらわれてあたりまえ。心を入れかえてもう一度夫に尽してみなさい……」というお説教（助言？）が聞こえてきそうである。「まあ普通は、二、三日いたら落ち着いてみんな帰りますよ」との一言が、まさにそれを裏付けているかのようだ。

しかし、ちよつと想像してみてもいい。夫の虐待に耐えかねて、着のみ着のまま、取るものも取りあえずウチを飛びだすときに、ミルクを作って補乳ビンに入れて……なんて余裕があるだろうか。おびえて泣きじやくる子どもを背負い、いつもサイフがはいっているハンドバックをかかえて飛びだすのが精いっぱいではないだろうか。そしてそのバッグには、女性ならたいがい化粧品の一つや二つは、いつも入れっぱなしになっていることだろう。結果的には、気がついてみたら化粧品は持ってたけどミルクは忘れてきたということになる。それを誰が責められよう。

いたたまれぬ思いで家を飛びだした女性が、頼れる知人もなく、ワラをもつかむ思いで助けをもとめてかけこみ婦人相談所。でもそこで女性を待ちうけているのは、なんと偏見にみちた冷たい目なのだろうか。

自立へのふみ台にむけて

かけこみ寺で自立への道を見いだすどころか、「女よ家庭に帰れ」と説教され、そこで出会ったさまざまな不幸な女性たちの話を聞くうちに「私なんか、まだマシなほうなのかもしれない」と悟る（？）ことで終わってしまうとしたら、婦人相談所とは一体、何なのか。

真に女性の自立をめざしたかけこみ寺は、女性たち自身の力で作っていかねければならないものなのだろう。しかしその一方で、これら婦人のための既存の公的施設の動きを絶えず見守り、真に婦人のための施設となるよう要求し、変革させていくのもまた、私たちに課せられているだいたいな課題のように思われる。

今日もまた、新しい生き方を見いだすことができないまま、飛びだしただけの家に帰っていく女性がいることだろうか。私たちのすぐとなりておこっているこの女性たちの現実を私たちは忘れてはならない。

（連絡・北海道婦人相談所

〇一一・五一・五九一二

五二一・〇六四八）

創業30周年

北海道の味

ラーメンの

龍鳳

サッポロ北 | 西3時計台通り  
喫茶 杜 (ぼす) 龍鳳地下

☎231-7409  
☎231-5819

すてきな女



# 山岡路子さん

あこら北海道発足時からの貴重なメンバー、「池田路子さん」です。もともと、これが読まれる頃には、ホヤホヤの「山岡さん」として東京のメンバーになっているのですが、喜ぶべきか悲しむべきか、正直いって少々複雑な心境なのでアリマス。

学校も職場もミッシェンスクールという温室育ち。無邪気にウエディングドレスにあこがれていたごく平凡なお嬢さんでした。その彼女が、「女性問題を勉強するうちに社会を見る目ができてきたような気がする」と言いだし、結婚問題に直面する中では、「男と女についてひとたび真実を知ったからには、もはや目をつぶって生きていくことはできないと思うの」と語るようになりました。

さまざまな矛盾や障害を承知の上で、なお「最善を尽くして闘ってみる」と結婚に踏み切った路子さん。遠く北海道から見守り続けたいと思っ

## 読む

### ベカンベの詩

美唄消費者協会が一九七〇年発足当初から出してきた「消費者だより」六十九号三百枚が約百頁に圧縮されて一冊にまとめられた。「ベカンベの詩」がそれである。ベカンベはアイヌの人たちがその実を食料にしていた木の名前。実を採った女たちへの連帯もこめてこの名をつけたとか。巻頭にまずこんな詩がのっている。

#### ベカンベの歌

わたしは ベカンベ  
悠久の 大地に  
なつかしい ふるさとに  
何億年の いのちの雫は  
わたしの 白い花びらに輝く

何千年も  
何万年も  
わたしの花に 恋をかたり  
わたしの果実に 愛をあたえた  
女たちよ

女性に成長できるように、おおいに「活用」してあげて下さい。

少ウラミがましい親愛の情をこめて彼女をご紹介いたします。山岡路子さんを、どうぞよろしくノ(里)

## 女性客のみ コヒー10円での接待

「トッカリ」が毎週水曜日午後三時から六時までに、コヒーを十円でサービスしてから五年になる。百名ほど入る席は、この時間になると主婦やOL・学生でいっぱい。もちろん男性客もいるが、コヒー十円は女性客のみ。



通常二百円のコーヒー、味もけつこういける。「女性客のみ」にした理由をマスターにきくと、この日だけは「感謝セール」というわけ。ただし、十円コーヒーは一人一ぱいだけ、一度行つてみたら？ (札幌市中央区金市館地下)

機械から  
合理から  
欲望の論理から

わたしのふるさとを  
とりもどすために  
愛と自由のメッセージを  
送りつけよう

美唄を中心とした女の年表「女むかしむかし」と、過去百年の「公害年表」に始まるこの消費者運動の記録、目次をひろってみると……

とうふの細菌テスト、魚制限時代、水銀・PCB汚染、保健栄養剤について、学校給食への要望書、AF2追放、子供が一日に摂取するかもしれない添加物、コーティング米、リジン添加を考える。恐ろしい塩化ビニール、便利なものに危険がいつばい、着色新時代(天然でも問題)、卵は生

アルゼンチンの魂の歌  
メルセデス・ソーサを聴こう!  
11月27日(日)2時東京・厚生年金会館  
会員特価切符あり  
へあこら東京

## 自分を変える本—さわやかな女へ—

1300円(会費1000円)  
送料160円 BOC刊

人と接するときに、自分の気持をわかってもらいたい時に、なにかを主張したいときに  
これまで私たちがどんなに マズイ 言い方や、ふるまい方をして失敗してきたか  
ハッと気づかされる本なのです。勇気も知恵も一緒に与えてくれる本なのです。

あなたも今日から さわやかな女にヘンシン! お友だちにもプレゼントしてみませんか?



# 〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	マ	会	場
11月10日(木)	18:30～	定例会〈行動を起こす女たちの会・労働分科会〉		中島法律事務所	03-350-6082
	18:30～	イングリッシュ・フォー・フェミニスト		ホーキ星	03-341-9364
	11:00～3:00	母と子の絵画教室〈フリースペース〉		フリースペース	044-977-2148
12日(土)	18:30～	特別企画 男の料理を女が食べる日 つくり・しゃべる男 小杉享		ホーキ星	
13日(日)	13:00～15:00	「しあわせなる結婚の実態」〈あごら京都〉		石川美智子氏宅	075-672-2805
	14:00～17:00	定例会〈行動を起こす会・離婚分科会〉		あごら読書室	03-354-9014
14日(月)		手話で話そうよ		ホーキ星	
15日(火)	18:30～	自分自身であること・他人との出会い 講師 黒木哲雄〈体のひろば〉		神宮前区民会館	03-401-0977
	18:30～20:30	定例会〈あごら北海道〉		北海道クリスチャンセンター	
16日(水)	18:00～21:00	アジアの近代化と女性の地位 タイを中心として研究報告 湧井由美子 下塚仁子〈アジアの女たちの会〉問い合わせは03-508-7070五島		渋谷勤労福祉会館	
17日(木)	11:00～15:00	母と子の絵画教室〈フリースペース〉		フリースペース	
18日(金)	18:30～	女のからだのおしゃべり会 ―マスターベーション―		ホーキ星	
19日(土)	14:00～16:00	婦人民主クラブ歴史講座 女帝と国家の源流―推古・斎明・持統―永井路子		婦人民主クラブ	03-402-3244
	14:00～17:00	定例会 地域の人々と語ろう「私の生きがいは」〈行動を起こす会〉		座間市座間児童館	
	14:00～	中学校社会教科書およびマスコミの男女差別調査〈婦問懇〉		私学会館1F喫茶室	
21日(月)	19:00～	お茶の会〈ひらひら〉(毎週月曜)		ミニコミ市場ひらひら	011-741-2801
22日(火)	18:30～	自分自身であること・他人との出会い 講師 黒木哲雄〈体のひろば〉		神宮前区民会館	
	18:30～	1980年イラン会議に向けて語りあう会		あごら読書室	03-354-3941
24日(水)	19:00～	保育館バク運営会議		保育館バク	011-742-7626
	11:00～15:00	母と子の絵画教室〈フリースペース〉		フリースペース	
	18:30～	イングリッシュ・フォー・フェミニスト		ホーキ星	
	18:30～	ひにと女		ホーキ星	
	13:30～16:00	社会保障分科会〈婦問懇〉		渋谷勤労福祉会館(予定)	
25日(金)	18:30～15:00	例会〈あごら東京〉		あごら読書室	03-354-9014
	10:00～	あごら17号合評会〈あごら東海〉		愛知勤労婦人センター	
26日(土)	18:30～	特別企画 女のうた 青木とも子		ホーキ星	
	13:30～16:00	会員懇談会 報告者 安江とも子氏〈婦問懇〉		桜蔭会館2階	
27日(日)		定例会〈行動を起こす女たちの会・主婦分科会〉		中島法律事務所	
	14:00～17:00	定例会〈行動を起こす会・離婚分科会〉		新宿厚生年金会館	
28日(月)		手話で話そうよ		ホーキ星	
29日(火)	18:30～	野口整体 入会金1000円チケット5枚3000円 問い合わせは03-401-0977		神宮前区民会館	
	18:00～21:00	女性史分科会〈婦問懇〉		文化服装学院出版局3階応接室	
30日(水)	未定	定例会〈婦人通信〉(毎週水曜日) 連絡先近藤恵子 011-271-4103(凍工社)			
12月3日(土)	13:30～	定例会〈あごら九州〉		福岡市立婦人会館	
	13:00～20:00	3年間の総括〈行動を起こす女たちの会〉総括集会 参加費300円		渋谷勤労福祉会館	
4日(日)		講演 小沢遼子氏〈国際婦人年あいちの会〉		名古屋勤労婦人センター	
11日	14:00～17:00	女の集まりイン津田沼〈あごら千葉〉		船橋市東部公民館	

(この欄に掲載ご希望の方はハガキでお申し込み下さい。掲載無料 〒160 東京都新宿区新宿1-9-6〈あごらミニ〉編集部)

## 各地の〈あごら〉例会案内

<p>〔編集後記〕</p> <p>「ミニ編集の各拠点まわりもち。この思いがけない提案に、みんなから「ムリだわあ」と第一声。それでもとにかく勇気をふるいおこして挑戦してみたいのがこの号です。なにしるこんなことを初めてする者ばかり。番くるわけやハブニング続きで大変でしたが、さまざま女性たちとの出会いも副産物として与えられ、良い勉強になりました。満二歳のあごら北海道、まだまだ頼りない足どりですが、しっかりと温かく手をつなぎあいながら、ともども成長していきたいと願っています。皆さまの率直なご批判をお待ちします。(山口里子)</p>	<p>▽問い合わせ ☎092-52117624 小島豊子</p>	<p>▽問い合わせ ☎075-7914623 塚崎美和子</p>	<p>▽問い合わせ ☎052-6210839 高橋ますみ</p>	<p>▽問い合わせ ☎03-35419014</p>	<p>▽問い合わせ ☎03-35419014</p>	<p>▽問い合わせ ☎012-62246772 山口里子</p>	<p>▽問い合わせ ☎011-741-2801</p>
	<p>□あごら九州 例会 12月3日(土) 午後1時30分 福岡市婦人会館</p>	<p>□あごら京都 例会(女と結婚) 11月13日(日) 午後1時3時 石川美智子さん宅 京都市南区八条内田町26</p>	<p>□あごら東海 あごら17号合評会 11月25日(金) 午前10時 愛知勤労婦人センター</p>	<p>□あごら東京 あごら大会実行委員会反省会 11月11日(金) 午後7時 例会 あごら大会の報告と総括 11月25日(金) 午後6時30分9時 ともに あごら読書室</p>	<p>□あごら北海道 あごら大会実行委員会反省会 11月11日(金) 午後7時 例会 あごら大会の報告と総括 11月25日(金) 午後6時30分9時 ともに あごら読書室</p>	<p>□あごら北海道 保育所アンケート集計と話し合い 11月15日(金) 午後6時30分9時 北海道クリスチャンセンター(札幌北7西6)</p>	<p>□あごら北海道 保育所アンケート集計と話し合い 11月15日(金) 午後6時30分9時 北海道クリスチャンセンター(札幌北7西6)</p>